

西夏文『新集金砕掌置文』の研究 4¹⁾

小高裕次
(文藻外語學院)

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 4

KOTAKA, Yuji
(Wenzao Ursuline College of Languages)

キーワード：西夏語, 『新集金砕掌置文』

0. はじめに

0.1. 本稿の目的

筆者は小高(2005, 2006, 2008)において、西夏人によって作られた西夏文字の識字教育用テキストである『新集金砕掌置文(以下、『金砕』と略)』の一部について紹介し、その日本語訳を試みた。本稿では、引き続き『金砕』本文第42連から第53連までの紹介を行う。底本もこれまでと同様俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所・中國社會科學院民族研究所・上海古籍出版社(1999)所収の『金砕』No. 741である。

1. 本論

1.1. 内容について

本稿で紹介する第42連から第53連までは、漢人姓の羅列である。12行で120の姓が列挙されている。本稿では、西夏文本文を紹介するとともに、西夏文類書『類林』²⁾および西夏語訳『孫子兵法』³⁾における文字の使用状況を解説する。

1.2. 夏漢『三才雜字』との関連

コズロフ探検隊のカラホト将来文献に含まれる西夏語文献『三才雜字』(以下、西夏文『雜字』と略す)⁴⁾は、西夏人の手によって制作された語彙集である。一部に欠損は見られるものの、1頁から30頁までが現存している。全体が26部に分けられており、その第22

1) 本研究は行政院國家科學委員會專題研究計畫(計畫編號 NSC 97-2410-H-160-004)の補助金によって行われた。

2) 史・黄・聶(1993)所収の影印本を底本とした。

3) 林(1994)所収の影印本を底本とした。

4) 李・中嶋(1997)所収の影印本を底本とした。

部が「漢人姓」である。ここでは2字1組、1行6組の体裁で7行にわたって84の漢人姓が挙げられている。このうち、以下に挙げる58字が『金碎』と共通する。

𠂔 𠂕 𠂖 𠂗 𠂘 𠂙 𠂚 𠂛 𠂜 𠂝 𠂞 𠂟 𠂠 𠂡 𠂢
 𠂣 𠂤 𠂥 𠂦 𠂧 𠂨 𠂩 𠂪 𠂫 𠂬 𠂭 𠂮 𠂯 𠂰
 𠂱 𠂲 𠂳 𠂴 𠂵 𠂶 𠂷 𠂸 𠂹 𠂺 𠂻 𠂼 𠂽 𠂾
 𠂿 𠃀 𠃁 𠃂 𠃃 𠃄 𠃅 𠃆 𠃇 𠃈 𠃉 𠃊 𠃋

西夏文『雑字』の「漢人姓」の部は、𠂔𠂕 1co:n 1'won 𠂖𠂗 2li: 1cheu:で始まっている。これは、『金碎』で漢人姓の部が始まる第43連の上の句2字・下の句2字と一致する。そのほか、『金碎』第43連の𠂘𠂙 1thyen2 2thi:、第51連の𠂚𠂛 1ngyeu' 1yo:n2や、前後は入れ替わっているが第51連の𠂿𠃀 2lyu 2mya'の3ヵ所でも同じ組み合わせが見られる。このことから、西夏文『雑字』と『金碎』にはその成立過程で密接な関係があったのではないかと考えられる。

コズロフ探検隊カラホト将来文献には、漢訳『三才雑字』(以下、漢文『雑字』と略す)⁵⁾も含まれている。おそらく西夏文『雑字』から翻訳されたと思われるが、体裁は大きく異なっている。

「漢人姓」の部は全20部のうちの第1部に置かれている。二字一句、一行五句、一頁八行の体裁で、二頁十四行にわたって138の姓が列挙されている。

『金碎』本文の説明の際には、必要に応じてこれら二種類の『雑字』を参照する。

1.3. 本文

以下に『金碎』本文第42連から第53連までの本文を掲げる。

42) ①𠂔②𠂕③𠂖④𠂘⑤𠂗 ⑥𠂙⑦𠂚⑧𠂛⑨𠂜⑩𠂝
 1co:n 1'won 1zyin 1cho:n 1kwi: 2li: 1cheu: 1leu: 1li: 1'ya⁶⁾

①𠂔 1co:n 漢人姓「張」の表記に使用される。その他、「中」「璋」「章」の音訳として用いられる。

②𠂕 1'won 聂・史(1995)はこれに漢人姓「王」を充てているが、『類林』『孫子』において漢人姓「王」の表記には𠂚 1yo:n2が使用されている。一方、𠂕 1'wonは『類林』において地名・人名の「阿」の音訳字として使用されている例が見られた。

③𠂖 1zyin 漢人姓「任」の表記に用いられる。その他、「人」「仁」の音訳としての使用が『類林』に見られる。

④𠂘 1cho:n 漢人姓「鍾」の表記に用いられる。その他、「中」「璋」「章」「終」の音訳字

5) 漢文『雑字』については史(1988)を参照した。

6) 西夏語の推定音は、西田(1997)pp49-58に基づく。また、表記は基本的に荒川(2002)の簡易表記に従っている。

としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

⑤𪗇 1kwi: 漢人姓「季」の音訳字として使用される。その他、「帰」「桂」「貴」「劇」「軌」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

⑥𪗈 2li: 漢人姓「李」の音訳字として使用される。その他、「蠡」「隸」「麗」「酈」「礼」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

⑦𪗉 1cheu: 漢人姓「趙」の音訳字として使用される。その他、「兆」「超」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

⑧𪗊 1leu: 漢人姓「劉」の音訳字として使用される。その他、「留」「籀」「繚」「流」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

⑨𪗋 1li: 聂・史(1995)はこの字を漢人姓「黎」の音訳字であるとしている。「黎」姓は漢文『雑字』に採られている。『類林』『孫子』では「犁」「離」「驪」「雒」の音訳字として使用されている。

⑩𪗌 1'ya 漢人姓「夏」の音訳字として使用される。その他、「下」「咸」「孝」「考」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

43) ①𪗍 ②𪗎 ③𪗏 ④𪗐 ⑤𪗑 ⑥𪗒 ⑦𪗓 ⑧𪗔 ⑨𪗕 ⑩𪗖

1thyen2 2thi: 1chyuq2 1thon 1tshyin 1vwin 2'u l'e: 1ywa:n 2tshi:

①𪗍 1thyen2 漢人姓「田」の音訳字として使用される。その他、「天」「定」「廷」「恬」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。

②𪗎 2thi: 本来は漢語からの借用語「地」を表すと思われるが、『類林』では漢人姓「狄」「翟」の音訳字として使用されている。

③𪗏 1chyuq2 西夏語韻書『同音』『文海』⁷⁾の記述から見ると、本来は「誘う」という意味を持つ動詞であるが、『類林』『孫子』では音訳字としての例が多く見られる。聂・史(1995)はこの字を漢人姓「褚」の音訳字であるとしており、『類林』中にも1例見られる(四卷 34-20)。ただし、『類林』『孫子』全体では国名「楚」の音訳字としての使用例のほうが多い。その他、「鋤」「処」「初」「杼」「沢」の音訳字としての使用が『類林』に見られる。

④𪗐 1thon 漢人姓・国名「唐」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』で見られる。その他、『類林』では「迪」「通」の音訳字として使用されている。

⑤𪗑 1tshyin 漢人姓・国名「秦」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「津」「曾」の音訳字としての使用が見られる。

⑥𪗒 1vwin 漢人姓「温」の音訳字として使用されるほか、人名「文」の音訳字として使用されることも多い。その他、『類林』では「聞」の音訳字としての使用が見られる。また、『類林』第7卷(33-10)で「季」の音訳字としての使用例が見られるが、漢語「季」と𪗒 1vwin との発音が大きく異なるため、誤記ではないかと思われる。

7) 『同音』については李(1986)を、『文海』については史・白・黄(1983)を参照した。

- ⑦𠵽 2'u 漢人姓「武」の音訳字として使用される。その他、「巫」「無」「五」「毋」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。
- ⑧𠵽 1'e: 「忻」「献」「韻」「軒」「憲」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。聂・史(1995)はこの字を漢人姓「邢」の音訳字であるとしているが、漢文『雑字』には「邢」姓はなく、同音の「刑」姓が採られている。
- ⑨𠵽 1ywa:n 漢人姓「袁」「元」「阮」の音訳字として使用される。その他、「原」「淵」「兗」「援」「轅」「遠」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。
- ⑩𠵽 2tshi: 「軹」「智」「之」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「枝」の音訳字であるとしている。

44) ①𠵽②𠵽③𠵽④𠵽⑤𠵽 ⑥𠵽⑦𠵽⑧𠵽⑨𠵽⑩𠵽

1kyin Ingyin 2tha 2seu 1cyin

1hu: 1phyi 2sheu: 1hwyin 1tshwe

- ①𠵽 1kyin 人名・地名「金」の音訳字としての使用が『類林』に見られる。
- ②𠵽 Ingyin 漢人姓「巖」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「業」「言」の音訳字としての使用が見られる。
- ③𠵽 2tha No741 では「𠵽 1thon」と書かれているが、これは誤記だと考えられる。𠵽 1thon は 43 行目ですでに使われており、同一文字を二度使用することになるからである。No.742 には𠵽 2tha と書かれており、こちらが本来の形であろう。このことは聂・史(1995)でも指摘されている。𠵽 2tha は漢人姓「陶」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「悼」「濤」「道」の音訳字としての使用が見られる。
- ④𠵽 2seu 漢人姓「蕭」の音訳字として使用される。
- ⑤𠵽 1cyin 聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「甄」の音訳字であるとしている。『類林』では「徵」「珍」「真」「耀」「震」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥𠵽 1hu: 漢人姓「胡」「霍」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「湖」「虎」「謀」「鵠」「鶴」「壺」「穀」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑦𠵽 1phyi 漢人姓「彭」「白」の音訳字として使用される。
- ⑧𠵽 2sheu: 聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「邵」の音訳字であるとしている。『類林』では「少」「寿」「攸」「紹」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨𠵽 1hwyin 聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「封」の音訳字であるとしている。『類林』では「汾」「訓」の音訳字として使用されている。
- ⑩𠵽 1tshwe 漢人姓「崔」「翟」の音訳字として使用される。

45) ①𠵽②𠵽③𠵽④𠵽⑤𠵽 ⑥𠵽⑦𠵽⑧𠵽⑨𠵽⑩𠵽

1si: 1tenq 1hyan 1lyen 1lo

1sI 2twan 1pu 2syu 1leu

- ①𠵽 1si: 地名・人名「息」「西」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』で見られる。「息」については声調の異なる𠵽 2si:が当てられることもある。
- ②𠵽 1chuwa:n 『類林』『孫子』では「川」「伝」の音訳字として用いられている。また、

漢人姓「伝」は漢文『雑字』に採られている。

- ③儻 1hyan 漢人姓「范」「樊」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「化」「反」「煩」「番」の音訳字としての使用が見られる。
- ④胤 1lyen 漢人姓「廉」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「令」「伶」「效」「林」「陵」「靈」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑤隴 1lo 漢人姓「羅」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「洛」「琅」「郎」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥姦 1sI 漢人姓・官位名「司馬」「司空」「使徒」の「司」の表記に使用される。その他、「嗣」「姁」「斯」「賜」「汜」「思」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。
- ⑦孿 2twan 漢人姓「段」の音訳字として使用される。
- ⑧骸 1pu 『類林』『孫子』では「北」「博」「宝」「布」の音訳字として使用されている。 聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「薄」の音訳字であるとしている
- ⑨徂 2syu 漢人姓「徐」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「俗」「尚」「嵩」「松」「続」「胥」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑩藪 1leu 漢人姓「婁」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「陋」「牢」の音訳字としての使用が見られる。

46) ① 𪗇 ② 𪗈 ③ 𪗉 ④ 𪗊 ⑤ 𪗋 ⑥ 𪗌 ⑦ 𪗍 ⑧ 𪗎 ⑨ 𪗏 ⑩ 𪗐

2kyon 1na 1tshē 1tsI 1keu

1yo:n2 1kyu 2tshyen2 1pyi 2wyan

- ① 𪗇 2kyon 漢人姓「江」の音訳字として使用される。
- ② 𪗈 1na 地名「南」の表記に用いられる。また、漢文『雑字』には「南」姓が採られている。その他、類林第四卷(18-5)では地名「晋楊」の「晋」にこの字が当てられているが、発音が大きく異なるため、誤記ではないかと考えられる。
- ③ 𪗉 1tshē 漢人姓「蔡」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「才」の音訳字としての使用が見られる。
- ④ 𪗊 1tsI 漢人名・地名「子」「孜」「梓」の表記に用いられる。
- ⑤ 𪗋 1keu 漢人姓「高」「勾」の音訳字として使用される。その他、『孫子』では「皋」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥ 𪗌 1yo:n2 聂・史(1995)は漢人姓「羊」の音訳字であるとしているが、『類林』では「羊」姓を全て𪗌 1yo:n2 で表記している。『類林』『孫子』ではこの字の使用例はなかった。
- ⑦ 𪗍 1kyu 『類林』では人名・地名の「句」「挙」「莒」「車」「駒」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「鞠」の音訳字であるとしている。
- ⑧ 𪗎 2tshyen2 本来は「紫」を表す名詞であり、こちらの意味で用いられている用例もあるが、『類林』『孫子』では人名・地名「倩」「青」「清」「靖」の音訳字としても用いられている。聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「銭」の音訳字であるとしている。
- ⑨ 𪗏 1pyi 漢人姓「伯」の表記に用いられる。

⑩窳 2wyan 漢人姓「曼」の表記に用いられる。聂・史(1995)は漢人姓「万」の音訳字であるとしている。人編に数詞「万」を旁とする会意字である。

47) ①𡗗②𡗘③𡗙④𡗚⑤𡗛 ⑥𡗜⑦𡗝⑧𡗞⑨𡗟⑩𡗠

1tun 1wyeq'2 1kya 2nwe' 1nyyeu 1han 1shi: 2ho:n2 2bu' 2hwe

- ①𡗗 1tun 漢人姓「董」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「度」「敦」「東」の音訳字としての使用が見られる。
- ②𡗘 1wyeq'2 『孫子』では「占い」という名詞として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「隋」の音訳字であるとしているが、『類林』『孫子』においては「隋」は𡗛 1swi: と表記される。
- ③𡗙 1kya 漢人姓「賈」「簡」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「交」「家」「校」「駕」の音訳字としての使用が見られる。
- ④𡗚 2nwe' 『類林』『孫子』では地名「内」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「迺」の音訳字であるとしている。
- ⑤𡗛 1nyyeu 『類林』『孫子』では漢語の音訳字としてこの字が使用されている例はなかった。聂・史(1995)は漢人姓「卓」の音訳字であるとしているが、『類林』『孫子』において「卓」の音訳字は全て𡗛 1cyon が当てられている。
- ⑥𡗜 1han 漢人姓「韓」の音訳字として使用される。
- ⑦𡗝 1shi: 漢人姓「石」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「世」「僖」「出」「植」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑧𡗞 2ho:n2 漢人姓「馮」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「方」「奉」「放」「禾」「興」「豊」「逢」「雄」「雍」「風」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨𡗟 2bu' 『類林』では人名・地名「嫫」「慕」「母」「穆」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「卜」の音訳字であるとしている。
- ⑩𡗠 2hwe 『類林』『孫子』では人名「会」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「回」の音訳字であるとしている。

48) ①𡗡②𡗢③𡗣④𡗤⑤𡗥 ⑥𡗦⑦𡗧⑧𡗨⑨𡗩⑩𡗪

2hwen 1ceu: 1ya:n 1sho:n 1ko:n 2hwo 1hu 1zi: 1hi: 1ti

- ①𡗡 2hwen 『類林』では人名・地名「薤」「行」「衡」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「鮮」の音訳字であるとしている。
- ②𡗢 1ceu: 『類林』『孫子』では人名・地名「周」「州」「昭」の音訳字として用いられている。
- ③𡗣 1ya:n 漢人姓「閻」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「燕」「厭」「塩」「延」「淹」「斑」の音訳字としての使用が見られる。
- ④𡗤 1sho:n 漢人姓「尚」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「商」「上」「嘗」「常」「桑」の音訳字としての使用が見られる。

- ⑤矜 1ko:n 漢人姓「龔」「姜」「宮」「鞏」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「共」「恭」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥猗 2hwo 漢人姓「何」「黄」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「和」「尚」「河」「煌」「皇」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑦邈 1hu 漢人姓「傅」「夫」「苻」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「富」「扶」「敷」「甫」「福」「輔」「風」「鳳」「父」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑧威 1zi: 『類林』では人名「耳」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「児」の音訳字であるとしている。
- ⑨翳 1hi: 『類林』『孫子』では人名・地名「喜」「羲」「奚」「熙」の音訳字として用いられている。
- ⑩薮 1ti 『類林』『孫子』では人名「徳」「得」の音訳字として用いられている。

49) ①窳 ②夔 ③菑 ④鞞 ⑤葑 ⑥虬 ⑦孀 ⑧窳 ⑨穉 ⑩焮

1kye 1kwo 1kwyin 2kheu: 2the: 1shyI 1shyin 1ki: 1swin 1ha

- ①窳 1kye 漢人姓「耿」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「啖」「缺」の音訳字としての使用が見られる。
- ②夔 1kwo 漢人姓「郭」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「古」「固」「国」「孤」「穀」「谷」「広」の音訳字としての使用が見られる。
- ③菑 1kwyin 『類林』では人名「君」「公」「軍」の音訳字として用いられている。
- ④鞞 2kheu: 漢人姓「喬」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「丘」「咎」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑤葑 2the: 『類林』『孫子』では人名・地名「定」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「鉄」の音訳字であるとしている。
- ⑥虬 1shyI 漢人姓「師」「史」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「世」「侍」「士」「始」「施」「氏」「詩」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑦孀 1shyin 漢人姓「申」「沈」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「晨」「神」「辰」の音訳字としての使用が見られる。聂・史(1995)は漢人姓「中」の音訳字であるとしているが、『類林』では「中」の音訳字には絛 1cho:n または勑 1co:n が用いられる。
- ⑧窳 1ki: 漢人姓「紀」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「冀」「基」「姬」「嵇」「己」「棘」「稽」「箕」「記」「汜」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨穉 1swin 漢人姓「宋」「孫」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「濬」「荀」「遜」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑩焮 1ha 漢人姓「闔」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「皓」「合」「褐」「河」の音訳字としての使用が見られる。

50) ① 𧯛 ② 𧯜 ③ 𧯝 ④ 𧯞 ⑤ 𧯟 ⑥ 𧯠 ⑦ 𧯡 ⑧ 𧯢 ⑨ 𧯣 ⑩ 𧯤

1tshu 2leu: Ingi:' 1su 1yeu:

2hi 1tseu 2ha 1'yi: 1chyin

- ① 𧯛 1tshu 漢人姓「曹」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「秋」「譙」「湊」の音訳字としての使用が見られる。
- ② 𧯜 2leu: 漢人姓「陸」の音訳字として使用される。その他、『類林』では「緑」「録」の音訳字としての使用が見られる。
- ③ 𧯝 Ingi:' 『類林』では人名「儀」「毅」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「中」の音訳字であるとしているが、『類林』では「倪」の音訳字には𧯞 1'i:が用いられる。
- ④ 𧯞 1su 漢人姓「蘇」の音訳字として使用される。
- ⑤ 𧯟 1yeu: 漢人姓「姚」の音訳字として使用される。その他、『類林』では王名「堯」、『孫子』では人名「攸」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥ 𧯠 2hi 聂・史(1995)は漢人姓「渾」の音訳字であるとしている。
- ⑦ 𧯡 1tseu 本来は漢語からの借用語「酒」を表す文字である。漢文『雜字』には「酒」姓が採られている。
- ⑧ 𧯢 2ha 『類林』では人名「皓」「賀」の音訳字として用いられている。聂・史(1995)は漢人姓「和」の音訳字であるとしているが、『類林』では「和」の音訳字には𧯣 2hwoや𧯤 1honなど複数の異なる文字が当てられている。
- ⑨ 𧯣 1'yi: 漢人姓「殷」「尹」の音訳字として使用される。その他、『類林』『孫子』では「蠅」「陰」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑩ 𧯤 1chyin 漢人姓「陳」の音訳字として使用される。

51) ① 𧯥 ② 𧯦 ③ 𧯧 ④ 𧯨 ⑤ 𧯩 ⑥ 𧯪 ⑦ 𧯫 ⑧ 𧯬 ⑨ 𧯭 ⑩ 𧯮

Ingyeu' 1yo:n2 2mye 1thu 2kya

2lyu 2mya' 1khi: 1pI 1hwya

- ① 𧯥 Ingyeu' 聂・史(1995)は漢文『雜字』に採られている漢人姓「牛」の音訳字であるとしている。
- ② 𧯦 1yo:n2 漢人姓「楊」「王」「羊」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「容」「揚」「融」「陽」「鴛」の音訳字としての使用が見られる。
- ③ 𧯧 2mye 漢人姓「孟」の表記に使用される。その他、『類林』では「猛」の音訳字としての使用が見られる。
- ④ 𧯨 1thu 本来は動詞「設ける」であるが、漢人姓「杜」の表記としても用いられる。その他、『類林』『孫子』では「屠」「度」「徒」「敦」「渡」「土」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑤ 𧯩 2kya 聂・史(1995)は漢人姓「家」の音訳字であるとしている。『孫子』では「賈」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥ 𧯪 2lyu 漢人姓「呂」「盧」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「閭」の音訳字としての使用が見られる。

- ⑦𠵹 2mya' 漢人姓「馬」の表記に使用される。
- ⑧𠵺 1khi: 漢人姓「杞」「斬」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「奇」「岐」「忌」「耆」「起」「騎」「錡」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨𠵻 1pI 『類林』では人名・地名「不」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑩𠵼 1hwyā 漢人姓「項」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「華」「曄」「翻」の音訳字としての使用が見られる。

52) ①𠵽 ②𠵾 ③𠵿 ④𠶀 ⑤𠶁 ⑥𠶂 ⑦𠶃 ⑧𠶄 ⑨𠶅 ⑩𠶆

2kheu 1ngye' 1tsun 1ko:n 1gu:'

1we:' 1chyi 1khwa:n 2se: 1'an

- ①𠵽 2kheu 漢人姓「寇」の表記に使用される。その他、『孫子』では「克」「口」の音訳字としての使用が見られる。
- ②𠵾 1ngye' 『孫子』では地名「樂」の音訳字としての使用が見られる。聂・史(1995)は漢人姓「嬰」の音訳字であるとしている。
- ③𠵿 1tsun 漢人姓「宗」の表記に使用される。その他、『類林』では「駿」の音訳字としての使用が見られる。
- ④𠶀 1hyu 漢人姓「許」「荀」の表記に使用される⁸⁾。
- ⑤𠶁 1gu:' 漢人姓「虞」の表記に使用される。その他、『孫子』では「外」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑥𠶂 1we:' 漢人姓「隗」の表記に使用される。その他、『類林』では「外」の音訳字としての使用が見られる。聂・史(1995)は漢人姓「韋」の音訳字であるとしているが、『類林』では「韋」の音訳字には𠶃 1vwi が当てられている。
- ⑦𠶃 1chyi 漢人姓「翟」の表記に使用される。ただし、「翟」には𠶄 2thi:・𠶅 1tshwe などが当てられることもある。
- ⑧𠶄 1khwa:n 漢語からの借用語「郡」を表す文字である。その他、『孫子』では「權」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨𠶅 2se: 聂・史(1995)は漢人姓「薛」の音訳字であるとしているが、『類林』では「薛」の音訳字には𠶆 2sa:が当てられている。
- ⑩𠶆 1'an 『孫子』では地名「安」の音訳字としての使用が見られる。

53) ①𠶇 ②𠶈 ③𠶉 ④𠶊 ⑤𠶋 ⑥𠶌 ⑦𠶍 ⑧𠶎 ⑨𠶏 ⑩𠶐

1yu: 1keu: 1cyeu 2nya:' 1tyen2

1heu 2theu 2tson 2mi:' 1phan

- ①𠶇 1yu: 漢人姓および国名「呉」の音訳字として使用される。その他、「吾」「梧」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。
- ②𠶈 1keu: 『孫子』では地名「亀」の音訳字としての使用が見られる。聂・史(1995)は

8) 聂・史(1995)では𠶊 1ko:n と書かれているが、恐らく誤記であろう。

漢文『雑字』に採られている漢人姓「九」の音訳字であるとしている。

- ③𪛗 1cyeu 聂・史(1995)は漢文『雑字』に採られている漢人姓「鄒」の音訳字であるとしているが『類林』では「鄒」の音訳字には𪛗 2cyI が当てられている。
- ④𪛗 2nya:' 『孫子』では人名「輦」の音訳字としての使用が見られる。聂・史(1995)は漢人姓「聶」の音訳字であるとしている。
- ⑤𪛗 1tyen2 漢語からの借用語「釘」を表す文字であるが、漢人姓「丁」の表記に使用されている。その他、「典」の音訳字としての使用が『類林』に見られる。聂・史(1995)は漢人姓「了」の音訳字であるとしているが、これは「丁」の誤記であろうか。
- ⑥𪛗 1heu 漢人姓および国名「霍」の音訳字として使用される。その他、「侯」「后」の音訳字としての使用が『類林』『孫子』に見られる。
- ⑦𪛗 2theu 漢人姓「竇」の表記に使用される。その他、『孫子』では「頭」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑧𪛗 2tson 漢人姓「左」「蒋」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「将」「蔵」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑨𪛗 2mi:' 漢人姓「麋」の表記に使用される。その他、『類林』『孫子』では「宓」「密」「汨」「滌」「眉」の音訳字としての使用が見られる。
- ⑩𪛗 1phan 漢人姓「潘」の表記に使用される。その他、『類林』では「鄱」の音訳字としての使用が見られる。

1.4. 「漢人姓」部分の「隠された意味」について

本稿で紹介した第42連から第53連までの部分について、聂・史(1995)は興味深い指摘を行っている。この部分は漢人姓を列挙しただけでなく、いわゆる「掛詞」になっており、もう一つの意味が隠されているというのである。筆者は現時点でこの説の妥当性について十分な判断を行えるだけの材料がないため、「隠された意味」の聂・史による解釈を下に挙げるにとどめる。

张王人中贵, 李赵琉璃下 天地褚唐亲, 文武刑院知 金银大小珍, 琥珀少翡翠 西川繁绛罗,
丝缎薄索缕 江南才子高, ?? 千百万 冬岁家内容, 寒时放牧回 行舟盐商贾, 祸福二? 得
更过军求定, 师伸计宋和 秋露宜酥油, 浑酒和茵蔯 牛羊买屠家, 驴马骑不? 口硬总虚
语, 尾窄?? 安

2. おわりに

以上、『金碎』第42連から第53連までを一通り紹介したが、いくつか未解決の問題が残っている。一例を挙げると、収録文字の選定基準の問題がある。識字教育用テキストである以上、文字の使用頻度に対する配慮があるはずであるが、本稿で紹介した文字は必ずしも頻繁に用いられるものだけではなく、また、漢人姓の音訳語として常用される文字でここに採られていないものもある。こうした問題については、稿を改めて考察することにした。

参考文献

- 荒川慎太郎(2002)『西夏文『金剛經』の研究』,京都大学博士論文
- 俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所 中國社會科學院民族研究所 上海古籍出版社 編
(1999)『俄藏黑水城文獻 10』,上海古籍出版社
- 小高裕次(2005)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 1」『東アジア言語研究』,8:1-8
- 小高裕次(2006)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 2」『東アジア言語研究』,9:16-23
- 小高裕次(2008)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 3」『東アジア言語研究』,10:19-26
- 李范文(1986)『同音研究』,宁夏人民出版社
- 李範文・中嶋幹起 編著(1997)『電腦处理 西夏文雜字研究』,不二出版
- 林英津(1994)『夏譯《孫子兵法》』上下,中央研究院歷史語言研究所
- 聶鴻音・史金波(1995)「西夏文本《碎金》研究」『宁夏大学学报』7(2):8-17
- 西田龍雄(1997)『西夏王国の言語と文化』,岩波書店
- 史金波(1988)「西夏汉文本《杂字》初探」『中国民族史研究 2』167-185,中央民族学院出版社
- 史金波・白滨・黄振华(1983)『文海研究』,中国社会科学出版社
- 史金波・黄振華・聶鴻音(1993)『類林研究』,寧夏人民出版社